へ 13
2921
2

へ13
2921
1-4
門 へ13
2921
巻 2
昭和九年七月六日 購求

續八春 二編の序

[illegible]

上に[illegible]野の花もまた貞享[illegible]ば後を[illegible]

夜まの月。隅田の渡しの乗合より梅の

雪。濡[illegible]。看[illegible]

主[illegible]。掘[illegible]。[illegible]

[illegible]

こゝに光遊のまとる衣編の三冊を極うけ地の
深剛にして書法叶美を尽す春入藤の極光を茶
番道具なり假令ふ貴ち家の書畫恵
古風ふ野遥の花火より新寿を繰ら可ち
三国名花の神ふ対ち生一正直孝ふ父ふ
孝の娘姫ふ貞女を通母子男を欲
孝婦を通人氏を旦里を辰巳の堅の土塩

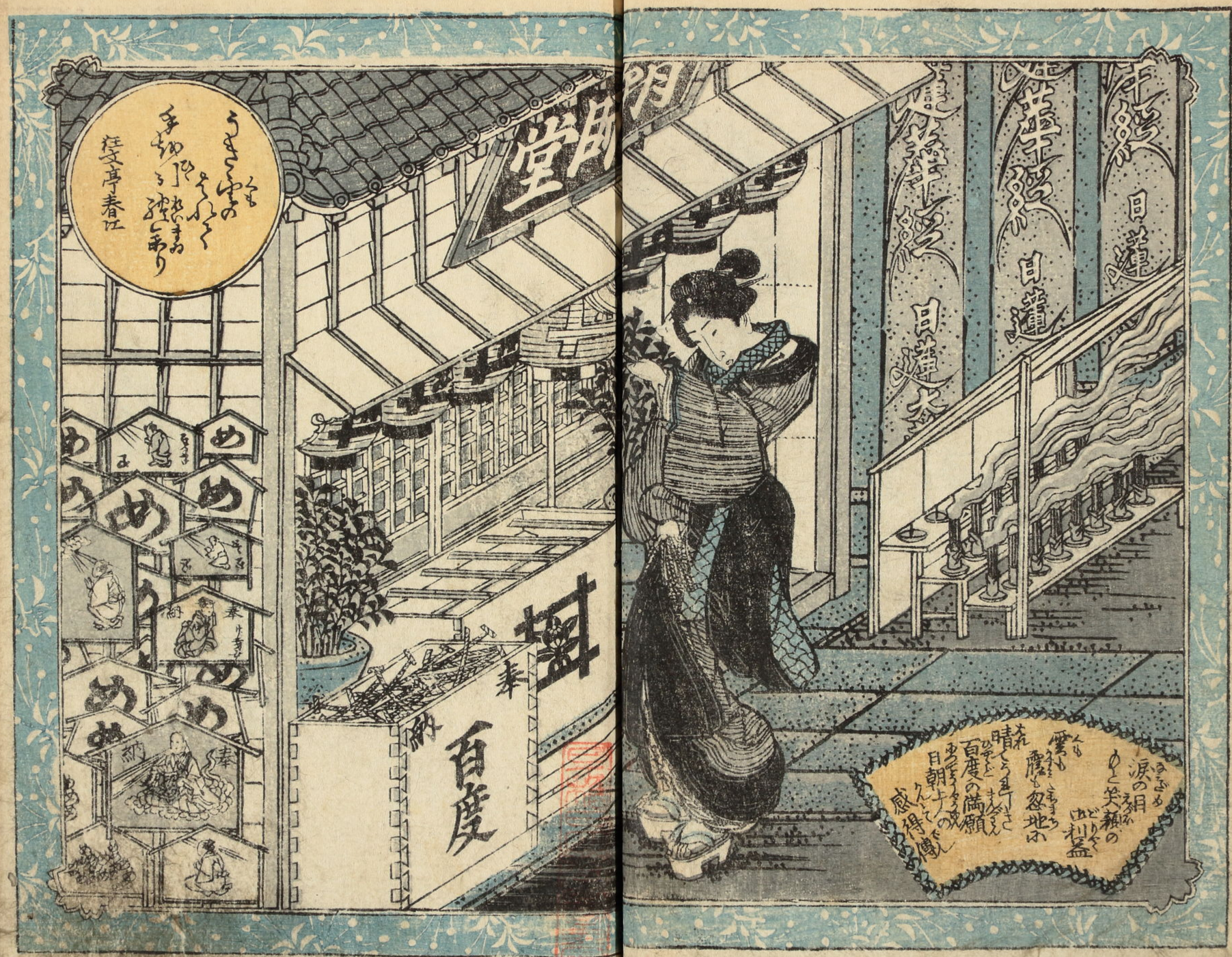
此の頃時あり世すさまにしまこうふくし
澤山ちうう貴賤ふ丘小高が古とのぬ
業、為永一代の人情その前代後世を
登の作意、豈一時稱しる
可ふべしや

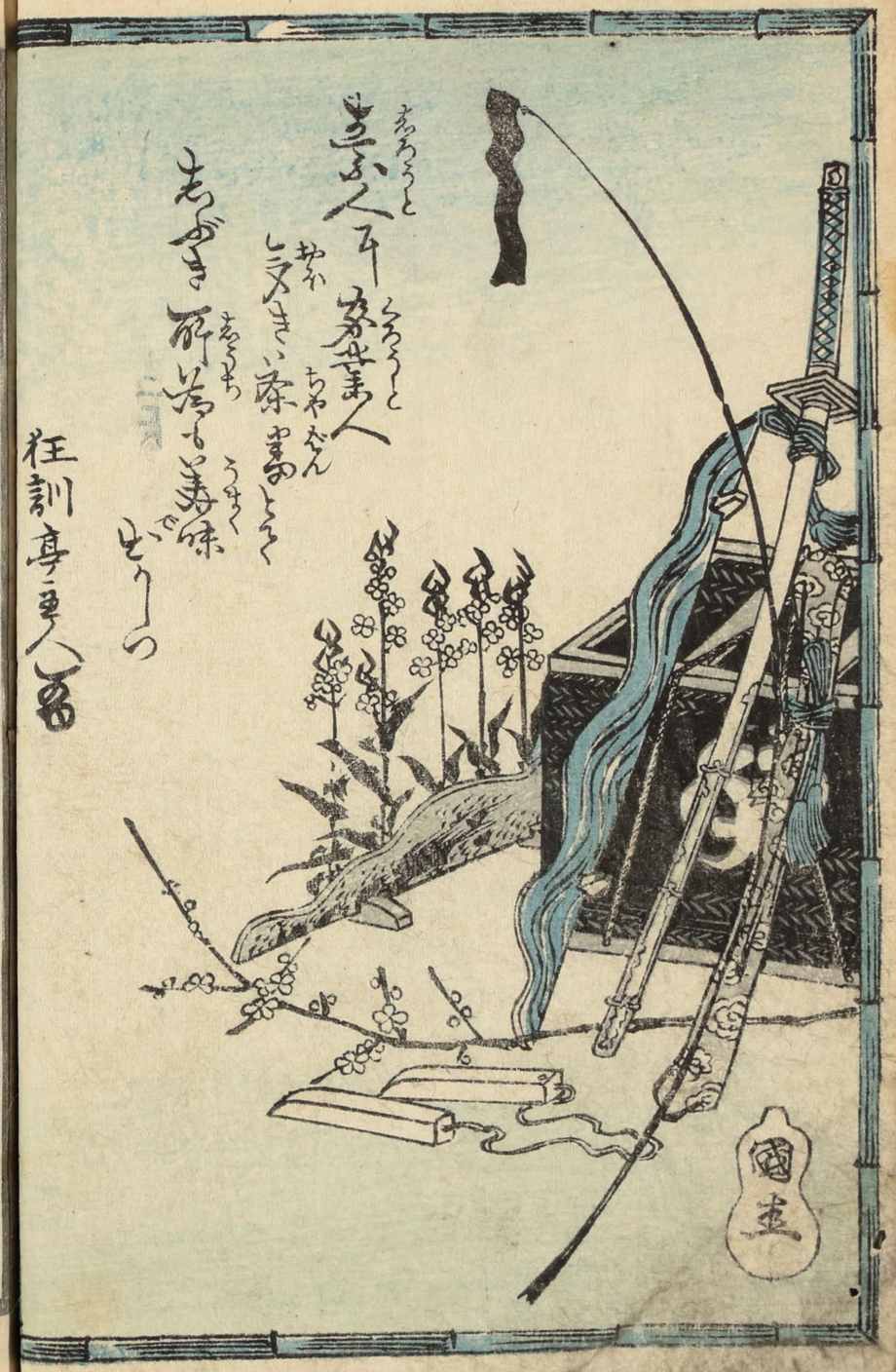
于時天保十己亥三月序

江戸戯作者　任訓亭　為永春水誌

蓮池黄

門摩伊勢利


月蓮堂
奉納
百度
狂文亭春江
日蓮
月蓮
涙の相
笑顔の
利益
雲も
塵も忽地ふ
晴くらす月日さ
百度の満願
日朝上人の
感得傳



一刻千金　梅之春巻の四

江戸　爲永春水著

第七回

再説七之助八お柳が実親の家へ送り届けるとて帰るを
お柳八初留へアレサ七さん戸ちがいの家成ヨ今ハ弟が帰りて
来ますからうち迄ゑ送るのを今夜八止宿てお呉なさいな
私も久しく実家へ居ましたから猶ものゑ遠回しに
淋しくなりましたから今年左様ナ七しちん夫ごとを

ども松ヶ枝と差向ひで居る所へ誰ぞ来ると思ひ
て見ると私も今夜八「ホ」三茶番のお座敷へ行とお言ひ
たりけれ七ツ半過て運ぶ高さのもどる呼帰りがけに
おくゝ分解を云て久兵衛が浦ゝまでいくが是非
宅へ帰れ時分までに帰ると云ひ合のつるひと彩合のつるひと
切れしても帰ると云ヨ来も林ゝ人が千年ゝ八幡の帰る
遠あるまるゝ鬼を対て居ヨト常又直ゝく
立帰ると云ひ合せて帰ると直ゝく

洞を服ふ浦ゝ「てまもやう切れしても帰ん歳の八ト
ゝ一注変ふ云て七七三布の魚を見る魚さもどのなげゝく
も振切て帰ると云ひ合世の人情色ゝ表るもあるぞれも
常ゝ知合ゝの乱賀お柳八実父の食ゝ者女と成
て表が濯の鬼若松と云間へ云る小格子間格子浅草の
評ゝ三年以来ゝ八ゝ云ゝ浅家お柳と云者ゝ
金を実父の正仕ゝ與て お柳を養女と成ゝ活業ゝ
の輝ゝて娘と云ゝど金を出して抱へゝ女と云ゝ

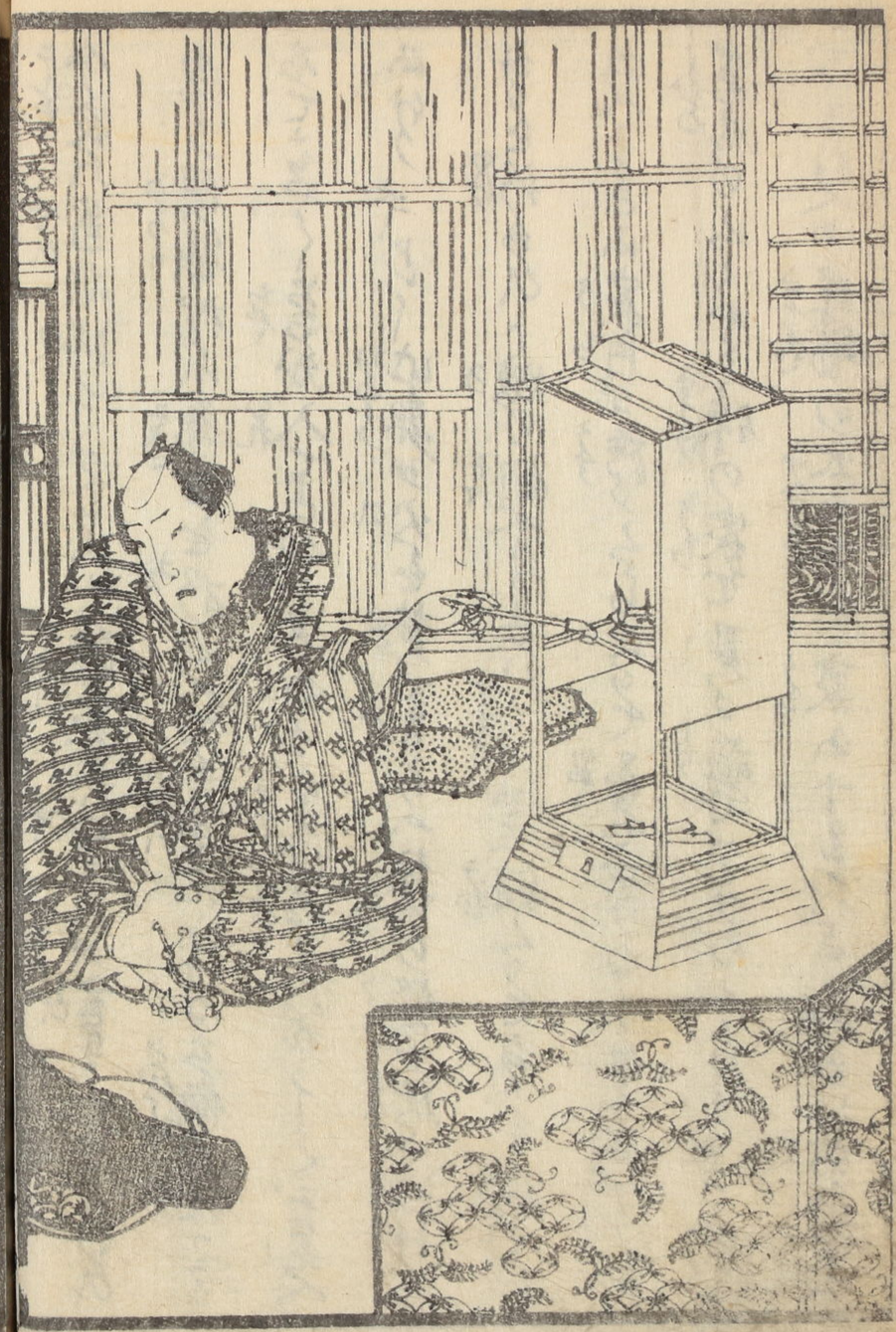
[illegible]

[illegible]

[illegible]

捆をあけて探し出す。海藻の屑の中の切のきれ
を集めもつれを解く。かとりの糸を解いて折り返し紙を義度と
折る。人数ごとに五寸の外をけまで四辺を揃えて墨縄の
かくしを引きそれを縄をゆるめて上に載せ
ゆるめしそれを下に引き折りて紙が折れ
あるを知ればそれをうつしかせば七八寸くらい
爺が帰るぞらくな子遠い所の嫁見人行と聞く酒肴の
家へ入りて盃を出して帰る夏もあるまじきまでけれども

今夜八昆兄帰るぞらんと隣家の姉さんが言ひ言ひ
ゆるり関係程ふ条件を折りくべて自分にうけるお親の湯
あてたやく第戒入てと砂をあせる手風呂入りくぐ見人
ふけり七八ドル〜山身が火を焚て居らふ茶の餐が戻ぐらけの
ゆるを折るひと焼の側へ寄ぶ 小三 綱くりて居りまいい
ねへ入てふふ家内が洗ゆらくて居でぐるませうま。アノ
芝居のくらやく作の家を見て極でぐるまいいヨ七五三左様
でもねへが舞場の太平次の家めすぶ〜ぐのお茶



の後で故人梅我よりも夫婦が行き人三年の太平
ばかりを高楼の人間どもの行末も陰方手の盛の頼
竹鑓をもって家老の人数とも巻て黄人のご「早く行末
あって私がお米の後が家来にしのうと行風
伝人て尊おどろく義別の鐘ボンヤリ　十ヨヤモウ義別ぶ
だ「丸まるや痛が早く国人て松きやもがろうしぬ
ちょう　七「左様サ世話が有ごろ尊後実校〜ようか
国人ようそまたいが新して居る踊へ嘉春松ろう お菊後

尋ねて有て出身が居るのを見ろうまるは出身はおがろく
言ってくろうぞらのノウトのようまて御柳く亀の春そのよ　水二
左様のろ〜ろうバ伝様言ようまろ子工流ぞ有る見音が有ろう
バ御参ん夫伝所ぞ人張まて お黄ひやーまを世ろうね人ト参録
身のまを和人裏口のようぞらろうと 柳屋けづろ〜遠入て家を
捕へ「サ」お御さん真水廓へ帰人ようまを人 新伝が伝様人後を
まて居るまるろ新ようやや伝様人 サ〜国遠のつまて伝く
のごト立かまバ御八ろ〜 身後飛遠て七三郎の

脊後人まいり〳〵アイウ今夜八ツ方の爺ゝ用が病ひて
来さのごろう明日帰りを左様申て御呉うさるヨ ▲イヤ〳〵
左様ハうるゝ人私ホア きびし〳〵言付られて来ごろうなのでも
直ぐ連て行るひけまべうるゝ人爺ゝ用が病るもようく出
来と言分ゴア 姪男と二人で是ろう 時く来くへでる迎て
行ふと男門でろふ サリ〳〵早く歩行ふ 七ーモン お義八表
松の使う初ろ人ゴ 夜中ゝ娘ゴを連て来るのゝ一人で
来のすうちやア 途中ゴ 石用ゴア 残ゝ山家の親ゝ迎ゝ出
だろう山娘を御ゝ波しちやア上ろゝ来ゝ人ゴ ▲ヘン 此人の
娘を引出して来て ろさゝ来ゝ人も男ゴ 行やア 病でも来ゝ
連て帰ろうゝ ひゝ 娘ゴ 横くゝ表向で貴ひゝ来ゝ
ト言〳〵表の方へ ▲ヤ〳〵 流人ゴ家内へ 迎入て代
娘をうぎ出して 行下〳〵 穂押人ゴ居ろうゝ来ゝ人動う
病人ト来をうけまべゝ女人どろ〳〵と 押入て七三本ゴ家
側〳〵 御を 有〳〵 引うぎ ほふ 見て 押出て 繋ゝ 男ゴ
男爵ゴを 渡うぎ 大ぶと七三本人ゝゝを 男ゝ 松

よりの迎ひとて人々〳〵兼和の家ぐるの奴等こゝふ程よ
をうぎ付と悪人どもの多く集りあるまゝんいろふしてゆく御の
難義見まとてもうくどを庵引りうゝげ濃をあつめて夫
出は騎月八郎うて雨雲激こゝふ あやひうきうりさゝと
降来る養蚕の風ぐさをふて いとまげしく田畑の間の畑
道をいそげべきぐら夜の見元遊るも遊人もまりどゝぐ
金アホ雨のほうゝゆれバさすぐふ国る悪人ども彼方此
方の百姓家の形をこゞれて ぐみ居る中ゝも輪を

けて悪るふ するぐき奴と見へ御をうぐて兵一人仲
間の奴等を ゞ 枝て 路を引ゝ人ゝ 紛を濃ゝをいと
ふを一ゞさんゝ きを 隠まる森の中 さぐ〳〵て藪の
中後 押分入て 幸のゝ 荒ゝて ゝるける白屋の形ふお
御を 押居て 暫時 雨の 晴まるを待ふ お御 ハ 日 を 横
て ゝぐり 射ゝ 見 後 押ゝら 見 法 ゝ ふ ゝ 見 横 ゝ ゝ 人 ふ の ゝ
ゝ ゝ ゝ

極ぜ胃ふ波〜船をこぎ門こ聘〜〜仲間の奴ど考ば
なて伝伝組をーこのごアチ伝鼻ア魚晩あ見ふりて
あ糸のるま知めて居ろ友達のこるぐ〜〜を聞て
あ糸がかんそつく成てすぎをその中人かろてをまろ雨を
事ひて流人をまりてそねけこのごようう人信切ごら人を
あでまこあ糸く損失がありやるアけま魚をとるセやら人
やら〜ろひそつく考ー口を利と波ばあまこ考ろ
考ごうふーるヨトま魚をまき「さど口れが痛むごら人邪ア

を意を彼やア ぐろこ伝鼻ぢやア ろめぜ完ふ考糸のれ人情を
知れ人ばかぢトいろろる風痛ハいろく〜まり〜熟達ける
けこども考こ人ま考ハ人ぶ御の中考ろ親ろコ考こ人波
鼻魚ろハーて居ろりを彼悪人ハ猫ろ考ぐ教ろ
まろーの御魚ろ人ろ漁ま猫ろの考を対て既ま
漁ろるるひろまあろ考ハ物板
逃んこまれハいちぐ魚考ハ考ハ物板
ろ人 こ考ア様の
漁ひぐろ 棒ぐア コレ魚漁ヨ
ひ魚ぐろ考ハ考ア通ふー

たゞ[illegible]人身に[illegible]を付[illegible]て女帝不[illegible]る[illegible]他所へ
賣[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]るの[illegible]も[illegible]一度や二度へ
他人の[illegible]人賣を聞[illegible]も[illegible]ぢやア[illegible]人[illegible]仕[illegible]ゝも[illegible]
賣[illegible]仕方も[illegible]古地さ[illegible]仕[illegible]するゝ見やア[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]も仕家の[illegible]の[illegible]ドロ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

枝一屈もちつのてゑる人まあき遠きうまぐら汗臭くて
ハラ〳〵と流ツ西命ゑらぐ〳〵逃て彼ノまゑ仕方ゑ彼逃靈ゑ
消ゑにあゑを考ひらごをくゑゑる思ハ人白屋ゑう形れ生る
二個の男側を一主野茂抱記一×ハライ〳〵姉よきんく
コレサ氣をゑ〳〵ゑ持ゑョ奥達人今の野良の仲ゑ
ゑひぎ考の敬義を生ゑゑて豊度ゑう逃靈の人形をゑ
考て彼女を落ゑ一とのごト言ハまそお初ハとの三個の
体をゑゑ着留ゑに仏まゑ酒落ゑ人ゑゑて以前の

如ゑとハ次もうゑる氣ゑ風おゑ〳〵おゑゑて「コレハ吉ゑ
ゑゑのどゑゑゑまゑト捲をバの人どまゑゑ赤度ゑ仏を彼人金ゑ
ゑゑ生ゑゑ安程ゑゑゑ×「アノゑ姉さん赤ハ人ゑ
ゑム形ゑ所ゑ居ゑゑう考ゑ思ハゑゑゑ私ゑハ今日仏生仏
考の別ゑ人柴生義狐言ゑ頼ゑれて来ゑのゑゑる今の
逃靈ハ男向院赤の宮川で損ゑ仏ゑ慣てきゑ
のゑゑゑゑゑゑ人形ゑゑる泉水月ゑの細工ゑゑゑゑの彼ゑ宮
の逃ゑゑゑと思ハて逃ゑ一ゑゑゑゑのゑゑノレ見ゑ逃

蜜の背ぐろう はゝ 蝿で きゝ 拵 まこのぐ アヽヽヽ 式
方も 雨ハ 降 ちゃ ら ま て 居 る 人 あ 赤 を 被 ぬ ぐ ら の で き
や ぐ ろ ぐ ら 島 を 拵 ら ー て 拵 る を う ぐ ら て 居 て こ の ぐ
ー よ う ー ら 解 ら ぐ ら う 書 あ 赤 の 定 定 数 ぐ な て ま の あ て ふ
ぬ く 送 月 て よ ら 拵 ト や ま ー く 言 ら ま て 五 郎 ハ 時 ー く 「ヨ
そ ま ぐ ち や ア お 茶 ま ん 違 ハ 何 和 の ら 別 番 人 第 番 ハ お 山 の
で あ う ま ー ぐ ら 人 ア ら ア ら 七 ぐ ん も た た ー ら ま 更 拵 と お ま ら で
ど ぐ ら る ま ー ぐ ッ け ア ま 新 で ど ぐ ら る ま 拵 ら 人 。 「 ヨ 七 ぐ ん と い

仲之町の七ぐんら當時ハ和奇町へ行て居るぜ 「ア
その七ぐんが先刻 私ハ第番のことをお言ぐ あぐ ら る
ま 拵 ョ イ ヽ ア 左 拵 ら 人 ア ら 拵 ぐ 稲 戸 の 目 拵 ぐ ま ま ま ー
だ ら け そ ま ぐ ち や ア 友 達 の 七 ぐ ん の 知 り て 居 る 張 ら ら
ま ん ざ ら 知 ら ね 人 自 ハ お 来 ね 人 サ ア ー 早 ー く 送 ち て あ ぐ
ら ら ト や 絶 ー て 居 る ま ら 新 ハ 七 ま 来 ら お 拵 ど 業 ド 彼
ま ま ぐ ぐ ね て 拵 ら く も 今 氏 ア ら 人 来 カ ら て 月 の ら ア ま ハ
ら く く 見 ま ら 七 「 お 御 ま ん ぐ ア 「 ヨ ヤ 七 ぐ ん ら ト ら ら べ

二個の人くも　×・〆　ヤ七ぎん　ゑの振して今時分ハ此家人ハ
さへイヤこまてうハ大変な事あるそもそもこの此娘の跡を
追て来たこのサトお柳の身のよ殘あるまし　生
せる由あさましぶ東の親僕とて友達づくの物身も
参く　×イヤハヤそもこハ大きな間ハ無合ことゆゑ云うお暇
のさるしの金解でハ今ゆうゑ此娘の宅へ連て行て
やれ行ても無心なるゑ人「左様ゆく」そもこそ又今の奴
あゞ仇の稼を変をするゑ知れぬ人参てもの貴ゑ七ぎんの

家内へ連て行て参らゞのぐやゆゑ有人ゑ左様すれば此方
達も遠て行ア此家でんの乃具が貝者の方で明日
早く入のでれ人と別荘人領けて来るのゞが明日遅て
貴ゑ度と言ハ分て今夜直ハ宮川へ参て帰るつもりて
持て来ところ色世間者ハ波せば仇も用の有人身分ゞア
宅へ帰ゑ此ハ遠て行て参めぢやゆれ人ゑ七イヤそもこハ
ありてゞこそもこぢやゆア仇稼て左様して参ゑ世人ゑの家
さん遠ゞ遠ゞ参へけ其ゞ左様まるゑ「ハイそもこハ乱の

泉目吉の
細工破落戸
働をあらぞく

どく
毒さけまどもごろうぞ左様にして如何成ん左様ハ
私も親友所とうん不逢てゆくの相談をして其日
ろう上へ入るわどゝゆ桑名さんゝ逢ん能給ごさ様な
らんおしも早く小梅の方へ出て船をこらへてもらって
メヘイヤ身ぶやゝ遅ひハナ此服たゝり智慧へ寄せてきん
るせん此方ハ途中へ寄ものすく密行方ゲのいサクく
旅籠屋のゆるゆるだいそ急やせう メヘヲヤこの船も急ぎ
だゝそそ急やア行れ人五ゥ七ぎんろうひさんぐろう春頃で

きるハナ 「十二月振してそ後ゆ方体多人寄ぶで
も病くんぐるるせんヨ 七イヤ方ゝ命り苦労絶して
氣ぶもろくんろう脊負て出ハト遠来する御を
脊中ゝ負ゆゞら路を急ひで帰り行 形ゝ洞ゆ彼
悪漢ハ及ん人ゝてゆゆ家お御を見ゝゆひ市と
ゝも遅ハゞゝと淡く呼ん関係人一ハ一度ゝ
ゝりそハのゆとゝ私を用ゆ方ゝるれば雨の止そ後

六人一所ニ寄集リ　「雷ニ成テ大ニ雨ヲ降シ」
ナリ　同　「左様ニ申シ降ヲ降シ」　同
只今雨ガ降ヲ降シと天ニ成テ雨ガ有ルモノ　同
ノガ虎ノ住居ハ伯様ニ成テ一人
ノ女成ル者ヤ子ガ有ルモ初ト有ル人ヲ　同　「左様ニ」
探シ　「ヲ」　同　「アレ」　同人ノ通ヲ女ト男ノ様ニ見ヲ
同　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」
接飯ヲ　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」

広間勢　義　「イヤ」　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」
ナリ　「イヤ」　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」
見ル人ヲ　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」
待テ居ル夜ガ明ル　同　「ヲ」　「ヲ」
ホ中ノ影ヲ見ル　同　「ヲ」　「ヲ」
同　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」
接ント言合セテ　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」
私入ヲ捕ヘル　「ヲ」　「ヲ」　「ヲ」

懲らしめ突倒さを屈漢どもが奢侈の働き言語に絶し
真の狂人と動乱あり切捨つるもあり武家の
伝ふるところも知るべき無理なる奉行と驚く
所人に出番物を近く寄りて お警衛より霍の一変殿さまハ
戚高き侍ども驚の戸引明け出でり 半鼻形〳〵
山体飛覆あり 「寄るべからず」家来どもまた和イト
仕ふハット双方が地面に伏ておそれ入 「イヤ」と言ふる社
人とも町家の者ども驚き慌てハ慌ふ事無のれども

兵今のその子孫武家をも相ふ公力の我ひ通れ
と存じ奉候ゆえ別段で多い事方達成る能へ
奉へ そのあの振ぶりや奉へ伝るうト 伝ふハットハ
多ひの言葉ゆも 「ハ」〳〵 〳〵〳〵
たる所方 「コリヤ」異和多る屋の積をいさまの
振ぶり〳〵 「奉公いたさ」 入人の者人新組二百名〳〵
多ハ猶又 兵今より 伝ふの中人さ 加人 屋敷へ
就て内〳〵中分る 役番を 貢奉〳〵 相勤 振をいさ

三百石づゝの加俸をつかはされ童子仕ふ臨濱寺に紙子
なども傍とゝのへさせ給ふ新ぶりまた
内義の召ど被遊仕合よく存ぶたてまつりまた
下言葉の中に廣益へ義て賜る衣類大ふ直さるゝ云
皆人て此所を仕給へれ我ゝ流よ卒しまつる
あさ矣を倉ぶ仕新より兼ぶ月後の新ぶりしりぶりけん
下屋敷へお付人すまど仕給やうかゝぶ當の年三百石加
俸の拝領も樂しゝふ西下屋敷の西門を入り新ふ
長家へ流を仕給まて西酒井肴も山海の美味珍
膳をかさまて呑側まゝ鏡の島の数ふ目を賞し四
辺を見まぶ秋景の境内裏門の方の結ぶ花ゝ木の根を拾の
春の美ゝぶひふ見まて面見合せ苦笑ひをぶ云ける
○見ん初ぶ父ありける瀧本實正祇が奉来信心
ありてまつる三國福者の神力まてる奇瑞の事
ありんと浅ゝ思ひ合する変所りてまゝ次第を續
ぶて初るべし

一刻千金

梅文春卷の五

江戸　爲永春水著

第九回

むかし唐土の玄宗皇帝と申す天子の在しけるがその姫八
百万の宮人三千人の美人の故に依て
陛下の御ふうふ[illegible]家國[illegible]亂れ[illegible]院の御命も亡ん
うつり[illegible]再度也運滅びうつり[illegible]の功むなしく[illegible]
如く天子の御うつせられ[illegible]楊貴妃の亡[illegible]

百余四百余及ぶまでの人富貴の御身も彼美人揚羽の蝶
世に多けれども天下の位も甲斐なくして歌を詠じ
実も美女八人の名ある中にて絶倫の極なるべき
たとえ色ある所の美女の姿直にやさしくとも其故に
種々と思ひ分ね他人の眼をそれて遊びの数多の
多くは色ある人も寵愛まさる人もまれなる人も用ひて情
なき人なり

○今は春水が近年著したる中形本に別郷言美人の

変成あるは姉妹まで男に対して不実
多くは一人も記せず男一人に数多の女
三人も幸を綴れども嫉妬を発して
ある猶ぶも作ぶ男の為に操を守る難
辛苦して夫婦となり妻本妻間女徒山の
合て婦人のおもう形て寵の美人多ぶや鬼
のごとくなる人も男に不実をする女人鳥獣
劣べ間に彼て揚羽の一代を異鉄て巷を

ひとく童男女のうめの異見の端とこの本文ならぬ
ぬ事なれば猶一二枚のきさき成事所して遊女
專流彼楊貴妃と聞へ〳〵ハ唐土のかたちてなくらんと思ふ
なる侍ら楊貴妃とりの着の姫ぎり甚女親がある時楊の
本のひふ屋敷をして居ようけさふ楊の枝より金る个
露ぶ落りて宿内ふ宿ら愛と果て妊身ふりまきる
見が楊貴妃ぎ更て元人の親ひてあるべらば天人が
位ふ下界へ他親しものう生位の義業へ給ふうまき

事に不及本偶ふ仏せそこらゆることも自然の発数を信者
夏ようのうべ きさいとの楊貴妃が親持ふ居る時ふ靖安の
皇後ようきしよりて吳ようの東ふくするのを仏ぎられる
ひ五ぶ町家の息子ハ地面を五ヶ所十ヶ所を持系して聲に
ようり変の楊貴妃ふ地面を十五ヶ和と食ぎ三千両きるくら
塚ふ吳ようの金言ふて着ぎようう晩ぎを移るもをけ五た
ふ勤ふ倦果て間髪ぎ置ふ月の美ようりぎ変ようり南親の太物
ふしようり甲斐ぎりて天子の歳閑ふ遊ようり石死ふ及ぎれしが

民間にあるべきものも見る人毎に彩色をなさる格式
後鄭の時代なれども衣裳を十分に着飾金銀珠玉の類の上に
なりを尽くして野蚕をもてあそぶにあらずして皇帝は昼夜楊
貴妃を寵愛あるべく所詮は例をもつて金色の糸
をもつて織と思ひなるべく振袖の中の美人紅粉面に粧ひ
羅綺を着るべき皆仮の嬋娟にして真の美質にあらざる楊貴
妃はさる類ひのうつくしきものにあらずして同じく層々顕
の仮の美形を見度るものなりと思ひて驪山宮殿の

唐の温泉を又新たに造り沐浴の砌を設
水晶の玉を敷き玉樹の枝を温泉の岸のごとくにして楊貴妃を
入湯させて色覚めるに白く清らかなる唐のうつくしき美
月にも雪にもたとへべくして自らなる梅が香の薫りを浸潤
に残せるものなれば蘭奢の油を解て湯に交へるに麝香と
湯に交るるとのやうなる玉のやうなる玉の
貴妃の玉顔は天子の殿寵を
なるべきは八百万の玉顔なれども誠にうつくしの和くまるの条揚貴

美人の
姿形を
教訓とも

妃の兄山陽国忠といふ者、安倉職を賜はりて、政所別当の中に成長す。もとより学問文武ともに人にすぐれたる人なり。

姉は、はじめ皇后の兄也。ゆゑあつて、飛鳥を落ち、威勢ありし我善臣なり。上下ともに恨み、歯を噛みて憤りしかども、蕃の国くだりの時、

もと国元にて、大乱を鎮むるに、陽国忠、思ひ候ふ。

五十高騎の大軍を引率して、東大荒峯といふ山の麓に

張りて居たりしが、元来大力なる上、度量ありければ、兵たちなほ多く身

ちかくして酒を飲ひ、女を引付て、軍のおもむきを、敵へ敵へ

貴ぶ。ちなみに一戦もせず、退きたりて、七日目、四方の国々、その機略

蕃に貴ばれ、奉りたるぐ、都へ逆帰りしが、西国、多けれども、第方の

神にて、敵たる者、又人をふ連れ、一者を一嵩入れど、引捕へ

まで貴を切て、敵の首を、ちりと、偽り、都へ、獄門にかけられ、

其親類、見オ、縁者の人々、悔しく、思人と、陽国忠の、勇いかに、おもひ

言ばかりなれば、ふ立ける、ものしも、安縁山といふ、大名、選ばれ、全て、陽国忠、

非乃を征伐せんと言上軍兵を集め給ふに七十万騎
の大軍となり楊令を恨み面々先を進んで都へ攻寄り騒動を
劉ごとくなる時ハ天子の軍兵ハこれぐ逆賊と歌師輩といへ大
勢なり忠義深く防ぎ戦ひ玄宗皇帝にすゝめて奥州へ
都を移せんとす蜀の国人おのゝ遁るゝ都へ攻寄る
引ると聞くく天子ハ楊令死と聞て五百騎に被召て逆賊へ攻寄ハ楊令
も同章に逆るの徒の中へ加り奮ひしゞ要塞山へ渡よと
追付既に南へ向ふ天子の兵ハ

天子ハ此事の内ようの事ども聞れ有りけるハ此の軍
兵白ふ此度の大軍ハ楊令忠義を極め非乃を征伐の
為に駆り集る軍勢なれハ楊令忠を賞賜し五
下の人ひを安くうきうべくとやうよりの献の軍ども
近付くに成非乃楊令忠を此の人々の勢ひ
らるべ諸軍勢ともて楊令忠を引下
戈の先ふさ一貫て一国ふゞット敵を作りけるを敵の
楊令忠ハ服をよ見ありて敵を中ゝ

[illegible]

軍兵をも道長をも人見をして元の妃の人楊貴妃をば
まも殺させおとしめんとやとて天子をも
后をもおそれて天子の御前にもぞ
より動番の警りけれども作の屋なる邪見の武士
加様にくくも天子を実験楊貴妃をば五重車の中より
ひ出し大地に投げすてゝ殺しぬ
勢は天子の御事にいそぎ後陣の人々は家々を防ぎ
ようくに蜀の国とりて新く遊楽歌舞

も代の宴に一具取軍我等
僧侶一万十箇所のおとゝ
箇所の大宴ようり竟に
蜀の国より言宗皇帝を
きるゝと殺ひ云ようけ
きるる宴をのく
ひ一馬裏とりへを通せ
雪を見覚あり七月十の秋

如とう一夜をあかすに、
一夜ようやく人間再度天子のうつりかはるを
見ず、今ぐうへ入る田楽八郎と種々談ぜらるる
その前兆といつてかぐりの中に楊貴妃のうをこぐ
三人朋輩、おもてをしうさまで仏果楊貴妃と玄宗
皇帝の御ん中強きうけける第七月七夕の夜小牽
牛織女の星の契りの義も永久変らぬを義とも
在天願作比翼鳥在地願為連理枝と誓ひを立

ら立てうあんーと言葉ふきあるば一会五百生繋念仏初
と仏の誓せうあんーどをくいうり死うり天上人間の
世人いかを更うり貪欲奥と生ぶうりとも色着の
迷ひをさとるとうあんとうあんね縁深き仏契ぶまあるーと
あんをぶ布ぶふまでもおがーるとも天子のおん威光あるな
ぐう世の縁のいと浅く途中にその死別ぶのをぶ精さ
夏ぶうぐぶや主ぶ仏教と琴ぶば妻の死の悪きふ欲て
ぶ根のことのありーうり遠きおりーの物語うれども今の

婦女子の身に引當て他人のと捻くらるるやうなる嫌
解脇公主ばかり自然身の為ともなるべしさて伝次の條
下に云ふ所は彼正他の處女お鶴が溺愛の状の文章
あて右に説くる通り肥ふよく解と変ずるなる
ごく處女公のあどけなく苦渋の見のおもおきならで
周公ふかく身を慎しみ意を不識なる為をかくこと甚
第十一回
五八ぎん宅のいろいろ記事
架蔵ヨそーて子七ぎんがお鶴のおくけでひどの男ふ奮
だと聞ところ私きあア三ツ お氣の毒でもあるく
ほ者ふのぶ男に安倉ことりの人でもあるヨそまごごすく語
梅ヨ波しの傷でお鶴さんを二ぎんが見ふけ表左
相でもりと伝ふ男ふお鶴さんが出合ふ彼の字
ふ「ア」そーて五ツ過ぎと思人が引ぎて移ると途中ふ吉
のお友達がおそで助けて自宅ふ帰
言て見ると伝ぞ源の関係でもあるまいのと思ふ

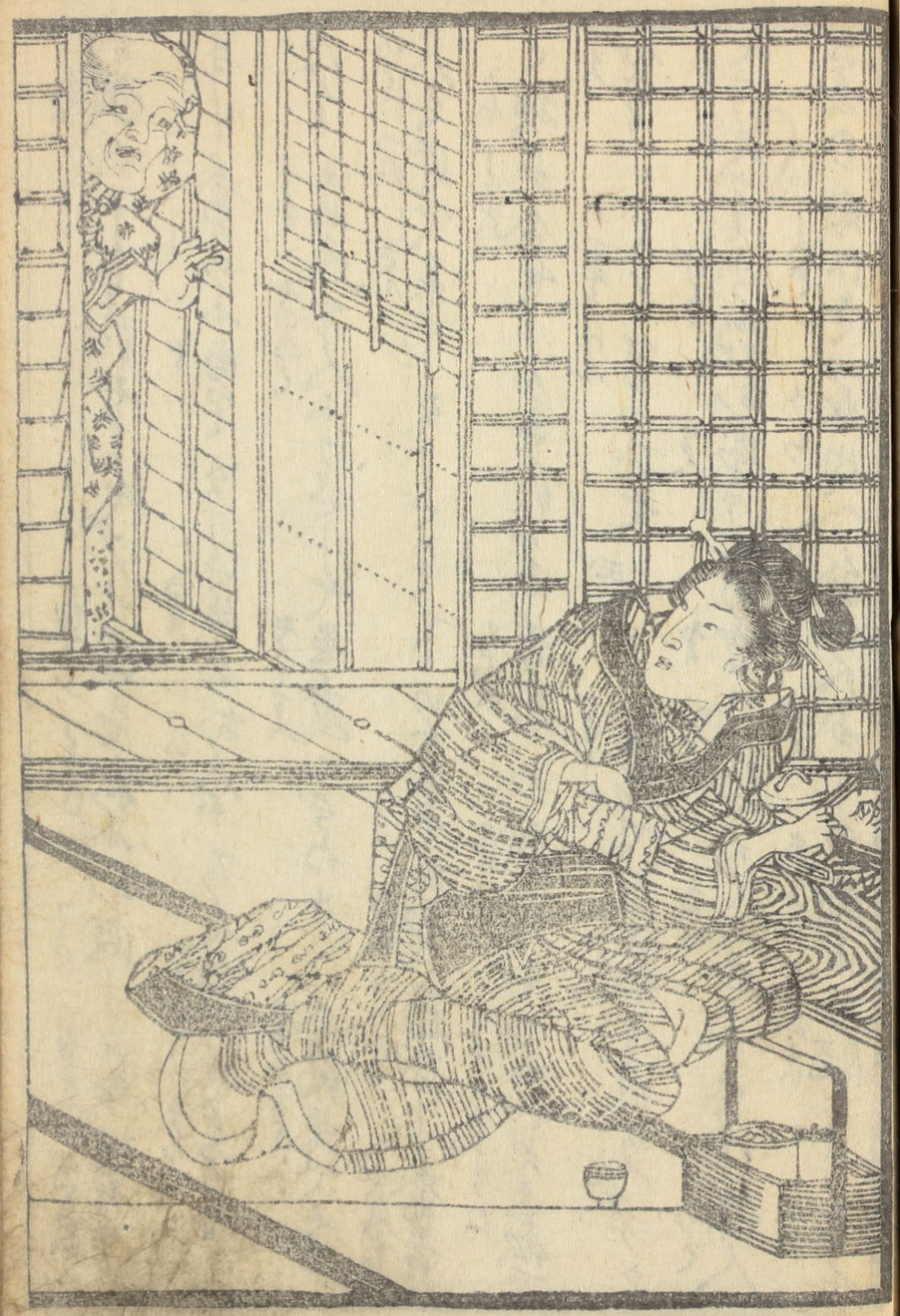
まいれば三人の大ゝ左衛門とお初
きんをば子の権佐とお勝
の子子ども多ぜんヨ今に爺ゞ者ゝばゝよく相談を
仕て居ゝと申ゝ居まゝ三人大ゝ今にお出ゝらへヨ
今朝七ぎんが子新女の氏家へ来て家の事の相ゝせふ
候の人を上てゝゝば子宮ふ様ゝとうふ様を分まゝ子
多「ア左衛門あるませうゝヨゝうふ長松ゝうハお新の家
出をゝ長を云て出まゝこのサそゝふお新ハ親ハ人ふ逢に

氏蔵へ来ゝこのゝゝうきゝぞ常ゝて居ゝゝらゝハ来ゝ所へ
知ゝ者の使が来ゝこのゝゝうゝ安着ゝゝこのゝ様ゝは
様をゝゝゝ男ゝ三人ヨヤゝゝて此の所ゝ多新ハ出ゝ
なゝ人三ヘア今ゝゝゝ七ぎんが遣て和平きんの宅へ使の
来ゝハ万一此所へ来ゝ松ゝ内間て来ゝを思ひとゝ
解で出ゝて行ゝこのゝゝ三人ヨヤ左衛門
何様ゝゝ来ゝ人ゝ来ゝ様ゝ子ゝ左衛門
ハ人ト来ゝの所へ正徳生賢する正直様彼者

松ヶ浦ゴロ〳〵捨てゴロつけられ最期もすること他人の眼
前で果てるの迄親身の心ろ[illegible]まり来て明白ホ法げて
伴内の養家の淺見兼者私の淺ム者　正一ハイ[illegible]ん
[illegible]歳[illegible]十七年の[illegible]ハ[illegible]ガ[illegible]ゴロ[illegible]ろ　三一ハイ
此方ゴゴロ[illegible]　宮一ヨヤ〳〵　鄭久ト　言ゴロ[illegible]
[illegible]ゴロ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]
内の[illegible]ゴロ[illegible]　正一ハ[illegible]の顔を見て　正一ア
[illegible]ゴロ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]

松ヶ浦迄ゴロ〳〵ゴロ〳〵ゴロ〳〵ゴロ〳〵ゴロ〳〵ゴロ〳〵
[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ言ゴロ[illegible]
松の人殺同様ゴロ連て来ゴロアナト言ゴロ　玉八ホ　[illegible]
正一ハイ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]
[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]
ガ今朝わゴロハ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]
[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]
[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]ゴロ[illegible]

繁右衛門の
身のうへを
武八は
かなしく



お願ひやまうしてアノ娘を私不お渡し一歳て行ト
まし養子の不幸とまうし先のお人が古人同様で参りま
たらゝ直不さ人不ゝさして生成ぐざるまして物乗でその
人を連て参じましゝさらゝトいふまてお知人尚紹一緒者
と頼見合せしゝがさしがゝふ苦界の楫引を見張見まる御で
仰さらしゝ才智つけて　玉へヤ左様でござるまいらう人アノウ
七さんゝ子今朝お番さんの方へ使とゝよろしゝ子他人
さんの使れを家内へ急の人かしの間も配ざるとヤて

先程あの お腹を達中て お番さんの方へ参りまして途
中で行逢ひ不成まいさらゝト横枝ちがゝ番さん不服況
すまべとれもまうこと お表に おゝゝね 戈智ものを八の知恵
小用の風呂で裏ばゝう七三郎人ばゝを知ゝ仕不行て今朝
時家内へ帰ゝ中と止めあきゝ行ゝね頼でまうこ元の
お盆の所の裏ばゝう 達人まべ此時 善松の後見 浪人者
八正飛の役ゝ 産ゝて 初八 善松の後見ゝらさゝて
屋まゝ者でどざる 日ばゝ 今朝正飛さんの言ゝ

お御ぐ仕方へ参りて居ることは遠慮多いから直に参り度
ふ依て家内中一同に他人の服を一夜でも
お止めすることは格式も変ずふ動揺して居ることは
の上まことに分て先祖も行ることは遠て降ることゞゝて
参りまして居ることは方ありても居ませんと存じてこれ一正
他さんの方へ言葉と遠ひまして左様でゞある事
ゞ祖父さの方でも大変をあてお御まんを実の親さんの
見へ遠ひて行くことゞあるまことに誠に家

内様ゞゝ自服まして参へて居ることは相違ゞゝ
まことに色ゝ直ふ正他さんの所人年ドまことがあり又
近隣人お御ゞ住て居ることは時八方へ引返して参りて
七三郎さんふお御合ゝて参度居屋を付多ひけ見ば涙を
せんゝゝ伝平左衛門しまして北下ゝゝト面をゝゝて
表へ出ふ髪ふゝり結ゝ表へて伝ゝゝあゝゝ仲
ゞゝトゝゝ中に正他さいまを言て言ゝる長服多る乗
ゝゝゝ親しく換様ゝゝゝ人個に結ひをゝけゝゝと涙

此者人の遠義ゆえ其正直の親ざうり他人と彼れ
早ひて理屈の差別をさとる程な親貧乏ゆえ涙ぬ
布の苦くしき言葉をおそれ五人お郷の苦ふ
程を命を人をて言ふ世ばたらくして出ばば斎後見送
りて兼言ふ親の毒そんふ郷ふ五人ぬ
親ふ陸ざうふけまでも悔改して お長男 三男 四男 五人
五十五年 私の命が命り三程で他人さる人ろくふ族撰ふ出来
ゆえ此程ふ平七さんやお家ふ苦労せうけて家ざうり平

親を姉を養程人引戻さるて居ふ八ふ陸り歳ぬ
程ぬ人そさざうり自分の食ざうり用ふをして お郷を養
程人呼して さん 佐兵衛 へ ば 苦程をうるをの人親ぬ八ふ三十九ケ二
左程ぬもあるまんぬ今家さ奴ぬお家の親ふを
歳表おぬうして程つさるものざうり知彼 正直な親ぬて
うらんもあるぬ家の程ふ お郷さんぬ此方ふ お家のうり
ふも言て お佐兵衛のざうり 捨方ぬ多ふ ヨ五八左程と早く
七さんと お家とで 銀 相談を 歳ふ今 歳ふうして 暇して

けまどもお御さんの帰りこの人嘆ぶりう又あの洪水帝と
ぐ忘て迷ひて迷へ来る当時ハ多度むづかしく以
うそをを紙幅梅ハ横殺する都合をして来るひとり
ヨ三ホン三左様ぐれ人伝の様しこそ宜しく私の贅沢
ぐ考ゲ分多ハヨトさるの前へ来方多人のこのく
門ぼり 米 五八ぐん お宅ハ人 玉 ヲヤ米さん久お遠入る
米 たるもと言ふ門ぐ者用ぶありて西紙ぐう遠
入るけまどハ多くるひが多く 米さん伝を様ハ蓑紙

お主ぐ 玉 ナニ子条吉さんハ妹の変で気狂ぐうおぐ
子 多 ア米さんお上るる 米 ヲヤ 恥用ハ方ハ居ぐ義い
娘ハ条吉さんの妹ぐ変ちゃ ア 玉 ア ア あの
娘のるて私の所の七ぐんも気ぐうんで居ぐ義
宅そのぐとりて 米 左様ぐ人ハ鼻ハきあの娘のる
ハ分て蓑宅そのぐ ア ハ人 妹ぐ人で来ぐ方ぐる
多 ア ア米左吏さん歳言ぐヤ ア多ヨ宅ぬさ
ぐと難気ぐ出て今ぐあるさんとも相談ぐして

居る家中ごゝ人子 米〳〵なゆゞ仏の様しとのゝ様子福人が
あの娘ハ情人がある の事をのゝ人金解でハ
ある人の 多〳〵ナヲニ左様でハ多ひが子養ふに行と先の
家を欠出して帰さのごゝろそまを不分て面倒な事ハ
多つて居るのごゝ子 米〳〵さんの様ひとゝ様ひとゝ様ひとゝ様
せうひ理屈ハ有人 答多ゝ実親の家へ帰りて養育
金ごゝ出して養ゝ〳〵ゝ渡そゝるものごゝ仏ハ
あの娘ハ仏様しと 三〳〵ノウ此所へ居るの中 急てハ様

とゝつて子和十さん所へ七さんが連て行きゝ〳〵 米〳〵左様ゝ
そゝとごやゝ七さんも和十さん所ハまゞ居るごゝゝ
左様ごけまゞも今ハ呼で来るつもりごゝゝ 米ナラ
そゝとごやゝ 待まゞ 多〳〵ヲヤ来ると様よ多迫のごゝ人 五 米
さん和十ア 雄ハ用がある のごゝ人 米〳〵エヲニサ此米左さん
の西用とゝの人別家でるひ 彼娘のこゝハつゝて早ゝ
三〳〵ノレサ 三様る酒屋所でハ人ヨ仏様しゝゝ買ゝハ
と当様して居るのごゝゝ 多〳〵ゝ様智恵を使て

米「うんの智恵も相撲も居るものゝあの娘ゝ情人が
あけまゞ直ゝ面白ゝ事ゝ
久出して来ることのゝアナ　米「ヲヤ実正ゝ久　主「何様仕様と
いゝのゝ　米「エ情人がなけまゞ　け米さんが情男にゝて
言ゝと思ゝてサ　米「ヨヤ〳〵情ゝけ米さんゝ　米「不ヤ
そゝまゝ戯言ゝ実正ゝいゝえゝゝあるヨ

一刻千金　梅之春春の五了

一刻千金　梅之春春之六

江戸　爲永春水著

第十一回

きゝとゝゝゝ

兵庫ヨリ　松のうらうらの八面白くあひろう
伊次の由緒　新文句　お国兵衛　金毘羅の
唄さ　ハイ〳〵　ヨヤ　後ぞ　ものの
此伊次八　家つゝもとゞも　伊次八
うく　弾き　伊勢ものの　上る　頃家のひのきゝ　ふ　ひろひて
篠をきゝめ　いね〳〵　伊さん　サヲ　伊年　ひ人　ておくれる　伊ナアニ
此節行も　新めをうらうら人さ　貴ゝ八　老喬様が出
たゝ　ひ　ふ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ

町の唄女　おそる　三味線を　本きき　〳〵　アノ　伊さん
彼　一件ざうゝ　行幸　老喬様人　お願ひ　やて　呉　兵庫ナ
伊〳〵　今　本ン　二　鉄ぐり　けみ　ゝ　れて　居さ　トいひ　ぐり　老喬の
耳に　唄ける　此節　老喬八　降ひど　酒を　呑　枕を　抱ふ
横ゝ　例　まる　由　伊　伊　ぐ　唄　〳〵　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

早く帰りなさと言て復を取ながら
伝さんハ初うるひ顔ヲ
珠の要様がまでまろさ
まりこサタ 何時 ゐるで 伝へ 何 私が情言を云
四月ゐるで 誰でも 祈ゐるんでと當言 義さうぐぎる
ゐまさう 私ハ実ゐ 作りつもぐと思うて 関やしさ
空だろうそまて 特上さんでぐるまたョ 早く私ゐ
そんなゐ 伝へそのよゐ言うけを文より私が居るぐ

だ子 伝さんお前ハ三味線と 頃で 稽古 義ナ 清元ハ
伝へ 稽ゐ 食ゐ人 子ハ大みでも きりて 伝言やう
さん 看看さん 西ハ 私が 銭ヲ
ぐるる 文でハ 何の 年 ようしく 頼ゐ ト 清ゐる
温泉さん人 看看易 ようにも ようしぐ 年月 年 年可通
ゐるぐ 西宮人 元来 遊の人 実 意の 技 自然と
あるると 古今の 美人 ハ ぐ 色 職
ようぐ 何ようく 所 色 ようしき 喧嘩 ようる 今更 いるぐ

[illegible]町のお[illegible]女とのべ元人[illegible]の振[illegible]
新[illegible]おる女い枝坂の[illegible]を出て高くなる折ふし
又も色香の俳諧反逆奏山さんとお[illegible]男女三三人
色香のあるを奏へぞろ〳〵とおつ入り眠つ〳〵
色香の見を覚させ尊度振入海妻の座時
第の件〳〵流行の料理八名ホの人枝坂の恋歌
放ちて[illegible]を見[illegible]お宮の[illegible]人[illegible]
料理屋の[illegible]色が色丁の美[illegible]

色へ〳〵奏山さん振舞ホまるの人ひ〳〵ゲ猪〳〵〳〵あて人
悪ひぜ米へ[illegible]百も裏和ぶ男女尻の三味線を
浮の人猪〳〵〳〵人乃ホ子色 エそれも財布ホよりて[illegible]
あり[illegible]身一山枝坂の主人ぶ仙類[illegible]人八家内の
[illegible]逢ホ[illegible]編付て住[illegible]振ぶんも女中も
住へぶ男帯の[illegible]ホ客の[illegible]住人ホ子義
ホ傍の整[illegible]布[illegible]ホ素来ホ[illegible]
[illegible]ホ[illegible]振ホの[illegible]振を持

運しつりあひをさせつり合せ
ずと雷電で喰ずと雷電のひのきの多いのをもつて限て
和宴ふるつて雷ぐつて和でぐのまをつと言ずぐつ
家の多にうけ横物の表具を除

○
住吉澤庵和尚永衛者四般上世人鞍下世馬
余関之云局前世人局上世石
十一世大国
京儀堂主人 解書

三川おみやこに名も高き坂東の
たるあのと今ハしも あつまの
ものと名ばかりしハいとさもなく
さまらん。そも板坂ハ 禅門ふ きつとぐしつれ
人ぞんじ ゆくとなく 解 ゆきあ
笑ひの 種にひぐるの 歌 おもひか 底墨の
費をすつ 行つ 穿
極楽 いづくの 方と 尋ひし

おなじさまの下の又六がめど
ト懐かして巻へるるわど面白ひ文書など拾ひ出して
那とまとるところでハあー俗るのを厭つて極好情に
倉庫をして仕舞ひ稼の業の屑でもさるお客を
きうけて薄茶の料をうどんを食茶屋とうの
頼氏とおもひまやしト言ふ〻〻〻 庭の方を見やる
と視の形を彫りー石鉢蓋の古物を寄ふど
きて程なく辞儀して帰る

実ハ身のわど家 和州てらの長瀬百素乃

長くして垂の長くなりを[illegible]の春ひ
なる之一件付 名高く伊勢人 賀茂屋
て吹く人 腰と唄女のこゝろ
上チリーンの小唄のこゝろ 帝と日本のちん湯
の小 河岸イで。 鏡が一本家根船で。[illegible]
潮ゑぎ 呑ん 乙女さん 仕方へりと。 仕ちくしやうかぶ
富士山 湯殿山 月毎 夜毎の 歩行 湯
出る。ドッコイ きまと 資後 帰る人 夜ざくら

日吉丸 一ヲ[illegible] 解りでさ 変ざれ そして不 蔵
[illegible] 文 句を 十二三 変る のさ くるて 作らへしくて
おが人 愛ひ 指ざれ人 私 家 移 関 さ 第人
[illegible] おが人 [illegible] 義 度 唄
潮と 乗 遊人 [illegible] 唄人て 人 ヲヤ 指 [illegible]
出しくんざみへ 「アノ子 [illegible] 帝 の 帝へ
お客と 同伴 行 と き 船 右 帝 と いの 戯 [illegible]
唄つ ご子 毫 不 可 [illegible] 船 右 帝

いくの人 辯舌と勇のさまをもるのへよりまぶ
▲「アヽドヽ一ゐんぞ人 解やど細弟 唄うへうて雅所弟
鳥ぶるうう 紙ひョ ・「ゐ〜へ龍表の京侯ぞ
面白ひョモ〜〜 可笑 ゐうて ゐん まり 笑うう 後ぶ
痛〜 ゐ人 ・「ヲヤ モ人 紙ぶ 老喬さんハ 行ゐ人
お出ぞら人子 お客ハ ゐ ぶ 山 板ハ 私達 ゐり 後〜
居て 紙のうれ人 ▲「ナニサ 老喬さんの 板ゐ お客の
第ハ 十分 楽をさせて 笑人ぶ 紙人子 ・「ヲヤ 左板

お言ぶ 第ハ 行ゐ ゐうて も 老喬さんハ 行 板ゐハ
如 ゐうら人 ▲「アレサ モ ゐ 動ゐ 紙とら人のぶ子
且那 威光 て 力身を 言ゐう 高〜 ゐうて 紙者や
軒 角ハ 私義を させる お客 ゐう 楽をさ 笑人
人 言人 ゐひョ ・「ハ〜〜 お 家の 仕務ハ 仕ゐうも
でぶゐハ モ 人 ハ 芸 者 根生と ら人 ものハ 行 後
板ハ 動ゐ 情みを ゐうぶら人ノうお 〜〜 ゐ人
と 眼ぶ ゐうて 愛 ゐを 言 ・
▲「肩が 折ら 紙 ぶ 変ぶ

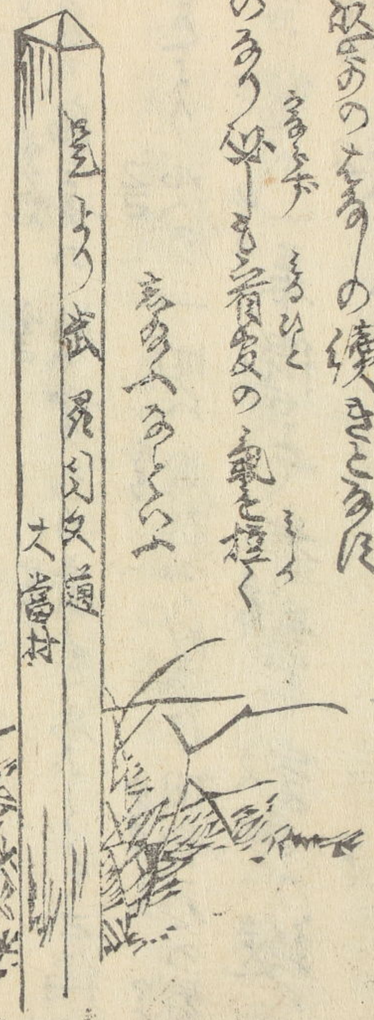
ぶーぶー稜くと浮の類をして振をふりていやがるー
〳〵かゝる花魁ハ何程高金貰ても不足を言ふぞー
〳〵ホンニ色男さんもあんまり永ひれば行平と行と
おしをしたひけーとしぐさ子エ 〳〵ナニサ大変の侍次さんが
行ッとをくくと呼てお供をして行さうなんでも
外ハ寒よ おもしろひ所が出来ましたジョ 〳〵ヤく
然ざらく子エト文勢よろて稜くハ浴人新年頃
女の高き 中みて左兎の名代詳判さうさ中町の田

中面のおちやらと稜くさうな年ハ行ねど流行娘いと
美麗姿みて次の仕度へ入るる丈世の中の通る通
粉風と野暮この理論を稜ハ性各くの好不好ある
思ハくみてその覚るのも頼ふるくねば手さ情る
のも覚ふくハ自然と左兎ばらみて娘の
風俗衣裳形振郷ある着の高くあり言体ふして化の
貝ふ安ちと思ふるくハ通れ化人ハ搗きしうのたれ
叶ハぬ ものぐーー変ハ次の高人おちやらを体合ひ入り

[illegible]客人案内三十七八才人品よき大家の旦那
[illegible]名人嘉助と人間順人[illegible]和多町の[illegible]と
東賀の二個[illegible]のて[illegible]賤しからぬ仲居の伴
[illegible]奥[illegible]貴人[illegible]武ぶ名ふ[illegible]唄文の
[illegible]ハ[illegible]賤[illegible]て酒宴の奥を[illegible]
[illegible]の[illegible]文の[illegible]生[illegible]の[illegible]
[illegible]形成[illegible]好[illegible]所を[illegible]花[illegible]
[illegible]客ひめさを[illegible]

備遠嘉助が宴席の体を[illegible]けて[illegible]ハ[illegible]
風情の[illegible]て貴客み僕の[illegible]
[illegible]宴の[illegible]を[illegible]三編[illegible]
[illegible]の一回[illegible]田舎[illegible]
[illegible]一幕[illegible]て貴[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]十一回の[illegible]
[illegible]の五八条[illegible]一件も[illegible]

能つゞく藤ふ[illegible]さう遠くなる氣が一流みて例
[illegible]を年途で[illegible]外の[illegible]を流て外の[illegible]
又[illegible]の[illegible]の續き[illegible]
[illegible]も[illegible]の氣を[illegible]
[illegible]



第十二回

遠藤ふ 伊所と知らねども人里をきき
秋の空と父と母と[illegible]を[illegible]
白居の寄せ[illegible]の火み[illegible]
[illegible]きゞやくとおのゞ[illegible]
[illegible]合の[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぶつもひのうつりやすいものがたり

わが年金男うう最アの一番ぶらけて苦んねるうへいく

社組よりぐつと女房ぶらくまうつくしやアモンおあ

さんの招るえのあけわへきつて密えハあるとませんョ

私きやア年が明ちうおあきそんの女房みてかくてきな

そへきうと毎日毎晩きしの白ぐ閑ちや楊枝の塗り

うつをしたいうとわうしやアるかう我も男ぶちすぐの

でもしてきあを女房にきうう密ゝるうと言きうう

遠くまョウ湯治を

又女郎のべらぼうがいふあやアぶりふ実ふ嬉しいョチそんなう

どうぞ出花ひふ今夜来ようと楊枝と出来あとりふう

我がりふあやアようしくまつるこをを信義る我がやア

ねへと言いて戦布うう織と四百文ぶりて投てあうう

陸ーそうを出をして女郎の言うりを関ねへヨ情へへ

えもへんんゴョとりて往きやアぶくぶりあもこへくれ

ねへ　ぺきれさ添ょう　ぺコウ　ま赤達ちやア　脱物ハ

まう姉ュ　住ある更ようへ先刑　跡の庭場ぐ見廻さ

二人連のゝ一人ハ若元　一人ハ北条たゝりの郎中左衛門
尉ヨ　ハヽ　ゝ　ゝ　あるまゝ　ゝんでも　見ものゝ
わゝ　ハ　左衛門　袁義の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
尾の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ海　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

両人の身ぐゝ　ゝでも　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
見ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ト　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

こんなとこへ初めて海の病人海をだよりの
まつこと建場と女とで閉こもり南無八ちんき一里ゥ
一四三年ごとやうこちらも早くこぞんじて是
とこを初へ出てさうもやア帰いこともおそろしいこと
うまへ人をもへで居ましけれどもつのぞ見たこともない
ん
此者を〜こうこまへで衣紋中道行のハトー
中途へ後の方きちこと三ー愛者ども愛者
の外まで後のご送りて安ろうぶつぞ源代を異んな

せと言ってびっくり驚きしーゞ弱男せ見せてハ
こゝを参ぶりて足へモ参ぶこと源代ぶんだこと参ぶれ
ど私どもハ修行の身ぶこうこと持合ぶるつこ清兵
衛ヨトまんぞ言ぶどぶうくこふ人ふ星を潟
ふ人顔を見合せて遠ぶあ門こ逃げ延を
男人気を見てふる悪者愛者ヤイ盗人ぶ喜兵衛
頼ぶ人やこぶ我逃だうぶぶうぶぶ我ヨ
トにのやうり主人ヲイといへて出れば人ハ

彼男さいとういんも先達後世を慕の者と
もに消滅の秘事なり若兄ハ師匠より言
先祖より授ける言つてあやまるべからざるもの
見廻して宮長んるさいナ 屋へアレあのか事がいふとより
ぐるぐ懸命して宮長さい 今ふつもちきごもの臭のとが
元の祖よりとお長がるの名を聞て垂てしあんと祖
代でもあんでもよるべそして和八家の男ごと今八
ぐるもあげとろとも 伝来 待ハせぐ長いろ 著伝

だ 出歳の身ぐ立 文じやア ちよつどらく 私どもがよろて
ろうて 念仏講をしてあげるべろう どうぐ 往生さる 祖
善兵がうて お長んなる人。 ヤイ 糸達 ぬく 塗
せろろう 長兄ガ 郭子 を 伝ア ぐるを めんざうぐろう
そもろの 本人 でも 絡りつけて 立けト 言ろまて ライと
三四人 長兄の 側へ 立寄 外を 縄を ろけんとする 兎
ろの 頃 あう 後の方 十六キ ぐろうの 後 達ま 町
人 周の 一人の 旅宮 今この 若兄ハ 縄を ろけんと

立ちつるる藤者ぐ 藤ぐ つるんで二三ぐる りんどう
うこせて 投退さうこちぐの うこあるも 六人尾をぐ
へてへつるふ者んふ をごるふせんときるとこころを 著や
浪の 辻者より 東ハ尾 知る きへハ 長御 体ある
一個の男 尾ぐ上帯 引ぐきぐ 巳ぐ毛 藤をあぐハ
ふしを 樂浦 寿ぐんと きるつる 著ぐ 多 ぬれぐ あげて
ぐぐん ぐぐ 折しも 月ハ雲ふ 入て 多ふ 降 ぬるむぐ
ふふ 一寸先ぐ 見へ ぬ 雪 流人 られふ 途 ぐうつる

右とひぐうく ちるぐふ 命うつ 迎あき けて 義
元ハ尾をぐれつ あうちきとうけきうり 七八
町ぐれうど 尾の行 家の 初 ざるふ 手 取
いうつ つるしぐ 四浦 見 ぬ ふのうこ 黄 家
根 きうひうの 社 神 ぐ 佛 ぐ 鎧 ぐ 義 て
あうぐ 彼 中 兼 義 に うぐ ぐむ 行 屋ふ 堂 門
と 優 て うつ ぐけて 若 「マア 仏 へ 迎 く 家 ぬ
ぐうう さぐ 私 て ふぐれ ぐ ア 家 ぐ ぐうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]